

う な ば ら 海原

題字河原孝好先生

海城中学高等学校同窓会誌

発行
2022年5月16日
第55号
海原会
発行人 徳光和夫
編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園
TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641
ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>

第101回海原会総会 6月4日（土）14時から リモート開催します!!

総会案内

14:00～14:30ごろ 式典の部
会長挨拶
来賓あいさつ
新理科館からLIVE中継
校歌斉唱

14:30ごろ～15:30 交流の部
オンラインにて交流

新型コロナウイルスの行方がない
お断を許さない状況
で会員が一堂に集まっ
ての総会・懇親会の開
催は今年も見送ること
を決めました。海原
会の新しい100年に
向けてのスタートを切
る年であり、またデジ
タル時代の同窓会のあ
り方を模索する意味か
らリモートでの総会開
催を決めました。当日
は学園のデジタル教室
をお借りして徳光会長や古賀理事
長らがライブ出演する一方、昨年完
成した新理科館の紹介や吹奏楽団
の演奏などを交えて海原会の現状
や母校の姿などをお伝えしようと
思っております。また昨年の100
周年記念総会で実施したZOOM
などを使った会員同士の交流の場
も開設します。ぜひ事前にメールア
ドレスを登録してご参加ください。
皆さんと共に盛り上げましょう。

※海原会は皆様の会費で運営されております。



海原会はおかげさまで101年目の第一歩を踏み出しました。

さて、最近ではウィズコロナと言われるようになり、同窓会が会員が様々な形で集い親睦を深めていく事がその主たる目的ですが、本会もコロナを前提とした運営に変化せざるを得ません。しかしながら、このことは新しい時代に向けての在り方

ためにもすべての世代の会員の参加が必要になります。海城学園130年、海原会100年。あらゆる困難を堂々と乗り越えて今ここにいます。一段のご協力を得てさらに海原会を大きく発展させていきたいと思います。

今年度もオンラインを中心に様々な英知

様々な英知を結集して

次の100年に向けて邁進

海原会副会長 森山昭洋（昭和41年卒）

今年度もオンラインを中心に様々な英知を結集して活動をして参ります。都度ホームページにてお知らせをさせていただきます。LINE・Facebook・メール等の浸透により人のつながり方は大きく変貌しています。改めて同窓会の役割は何かを考えなければなりません。次代を担う若い世代からの提案を期待してまいります。

繰り返しになりますが、海原会の基盤は会員の皆さまです。今年度も絶大なご支援を宜しくお願い申し上げます。

皆さまのご健勝とご発展を心から祈念しております。

を考える絶好のチャンスでもあります。従前のような活動が出来ないことを嘆くことなく、海城らしく海原会らしくこの難局を前向きにとらえるべきでしょう。技術革新の波に乗り、この時代に即した海原会にすべく知恵を絞りたいものです。その

コロナ禍の長期化という予想もしなかった事態の中で会員各位のご理解とご協力のもと海原会は安全・安心に配慮し日々の活動を続けています。昨年はオンラインで100周年記念総会を開催することが出来ました。今年度の総会もITを駆使したリモートでの開催とすることで準備しております。

もつと繋がる海原会 始まる

総務委員長 国井信男（昭和62年卒）

今年の総会はオンラインで開催することになりました。このためこれまでのようなカフェテリアを使った懇親会は今回も出来ませんが、ZOOMのブレイクア

ことすめています。この機会に是非皆様メールアドレスを登録して、オンラインでも海原会と繋がりますように。



6/4リモート総会
ZOOMアドレスQRコード

6/4リモート総会へのアクセス
ZOOMアドレス: <https://us06web.zoom.us/j/86379106230?pwd=Z3FmZm1FODhKODQwVWYyRCIdpdpdz09>

ミーティングID: 863 7910 6230
パスワード: 101101



海原会のデジタル化にむけて 海原会執行部からのお願い

海原会では次の100年に向けた「海原会のあり方」という大きなテーマについて執行部内で意見交換を始めました。目的は、会組織の持続可能性、会員交流の輪の拡大、それらを実現する「コミュニケーション」手段の多様化です。令和3年現在、会報送付先OBの卒年の中央値は平成4年です。従来ご参加の皆様とは引き続き親交を深め、これからという若手の皆様にはこれを機に輪に加わっていただけるよう、検討対応を続けます。

現在、会員の皆様との連絡は、主に海原会ホームページの連絡欄・FAX、手紙が多くを占めています。卒業時の住所が主な登録連絡先であったことが理由ですが、100周年記念総会をきっかけに始めたメールアドレスの登録管理を今後とも推し進めます。また、卒業生同士で利用が広まっているSNSを通じた交流促進も図る方針です。まずは皆様のメールアドレス登録にご協力をお願いいたします。また、同期やサークルの皆様にも呼びかけていただけますよう、併せてお願いいたします。

（広報委員会 HP担当 平成2年卒 岡本浩太郎）

メールアドレス登録方法

海原会ホームページの「リンク」から、または直接海原会100周年記念サイトにアクセスの上、「連絡先登録」フォームにてご登録ください。



海原会ホームページ
トップ

向上を目指します。母校の今と繋がるように、海原会員間で繋がるように、今までの郵送など紙メディアに加えて、ICT（情報通信技術）でのコミュニケーションの促進を強化する



海原会新役員

コロナ対応の最小変更で乗り切り

海原会の役員は今年3月末をもって3年の任期満了となりましたが、常任幹事会の承認を得て、以下のような体制で今後3年間の運営を進めることとなりました。本来であれば海原会100周年といったこのような機会に新たな人材に加わっていただき新しい海原会に向けて踏みだしたいところでしたが、コロナ禍で十分な対面の会合もできないという状況が続いていることを鑑みて、この時期に新規の人材に入ってもらい大幅な変更をするのは無理であるとの判断から、やむを得ない事情により退任する方々の役員を除いては留任をお願いし、最小限の担当替えをするという執行部案をまとめ3月に常任幹事会に諮りご承認をいただきました。なお常任幹事会も通例のように対面で集まつの会議は出来ませんので郵送とメールでのご検討とご承認をいただく形をとらせていただきました。

海原会新人事 (任期2022.4.1~2025.3.31)

会長	徳光和夫(昭34)留任
副会長	池内 宏(昭33) 小西洋也(昭41) 森山昭洋(昭41) 国井信男(昭62) いずれも留任
会計幹事	景山昇一(昭62)留任 岡本浩太郎(平2)留任
監査幹事	安藤 浩(昭34)留任 長沼徳宏(平4)留任
総務委員会	担当副会長 森山昭洋
委員長	国井信男(兼任)
副委員長	岡本浩太郎(平2)留任
委員	中村久憲(昭48)留任 歌橋和哉(昭57)留任 松長哲聖(昭62)留任
事業企画委員会	担当副会長 池内 宏
委員長	石黒淳一郎(昭47)留任
広報委員会	担当副会長 小西洋也
委員長	杉山紘千佳(昭36)新任

なお退任された役員は広報委員長を長年務めていただきました山田雅康氏(昭和36年卒)と総務委員長を務めていただきました福島賢哉氏(昭和41年卒)、総務副委員長を務めていただきました齊藤亮輔氏(平成11年卒)です。海原会運営でのご尽力に感謝します。

海原会今年の活動予定 および近況について

コロナ禍の影響で海原会の活動も依然大きな制約をうけておりますが、執行部はリモートによる会議やメールなどによる情報交換をしながらなんとか続けております。ただ皆様には適時十分な報告も出来ず心苦しく思っておりますが皆様のご理解とご協力いただけましたら幸いです。さて定期総会につきまして一面その他お知らせしている通りです。それ以外の海原会の今年度の活動予定および活動方針について現状をご報告します。

□決算予算

今年度の事業計画・予算および前年度決算につきましては例年通り5月をめぐりにまとめる予定で作業を進めます。監査などを経て確定次第皆様にお知らせします。

□見学会

昨年実現できませんでした海上自衛隊横須賀基地を引き続き計画していますが、いろいろ制約あり今のところは今年も中止の方向です。

□ゴルフ大会

海原会の冠をつけた大規模な大会は今年も見送りの予定です。ゴルフ会の有志によるコンペは状況により計画。

□海原会サロン

毎年海城祭に合わせたの対応ですので学園側の決定に沿って対応今年もリモートでの参加になると思われれます。

□会報

次回発行予定は12月です。

なおこれら事項の正式な方針が決定しましたら海原会の公式ホームページを通じてお知らせすると共に各関係委員会や部会から関係者に連絡します。なおホームページからはいつでも海原会への問い合わせが出来ますのでご利用ください。

(海原会広報委員会)



海原会100周年
記念サイト

那須高原校地再活用について



今社会は大きな転換期にあります。

しかも、過去に無いような規模と速度で全てが変化しようとしています。

それは教育界も例外ではありません。

しかし困難な時代では

ありますが、変革期は冷静な判断と強い決断があるならば、大きな成果が得られるチャンスでもあります。

常に変化に遅れないよう先進的な姿勢が必要と考えます。

海城は常に社会の一步前を歩んできました。

海城史はチャレンジの歴史でもあります。

その成果が今日の母校の姿であり、素晴らしい会員を擁する海原会の姿でもあると



改修工事を終えた本部棟

思います。海城にはかつて兄弟校、全寮制の那須高原海城中学校・高等学校がありました。

先進的な教育を展開していましたが、2011年東日本大震災により被災し、那須高原のキャンパスを後に東京都多摩市に移転、2017年に最後の卒業生を送り出して21年間の歴史に幕を下ろしました。しかし、自然に恵まれた広大な敷地と損害を被ったとはいえ施設設備は残りました。今この財産を母校の将来に活かそうとしております。

年齢、性別、国籍人種、専門分野等々を超えて、多様な人々が集い知的な活動をする場として那須の地に

「知のアトリエ」づくりに皆様ご参加ください

理事長 古賀喜博

「知のアトリエ」を作ります。そこで多様な人々が活動し、互いに交流するならば、アトリエで様々な色が混ざり合つてパレットに新しい色が生まれ出るように、新しい文化が開くであろうと思います。

海城の建学の精神に「国家社会に有為な人材を育成する」とありますが、これを「地球社会に有為な人材を育成する」と、スケールを大きく捉えたいと思います。会員の皆様「知のアトリエ」に様々な形で参加し、那須の地で活動していただく意義は大変大きいと考えます。

将来そこに母校の在校生達が参加してゆくならば、先輩方の活動に後輩が加わる機会となり、後輩の活動

後輩のため、そして将来の教育のためにご参加をお待ちしております。



入試広報室 塩田顕二郎 (平成30年卒)

コロナ禍で行われる2度目の入試。入試シーズンに入ってオミクロン株による感染拡大が広がり、受験生は入試当日を無事迎えるため、昨年以上に体調管理に気を遣うたことと思います。

さて、本校の2022年度入試は、帰国

海城生の頑張りが「熱望組」を増やす

2022年度中学入試をふりかえる

生入試(31名)と一般入試(2)38名で出願者数が増加、一般入試(1)7名は微減となりましたが、いずれの入試も実質倍率が3倍を超え、一層狭き門となりました。

完全中高一貫となつてから10年以上が経ち、大学入試実績は安定し、とりわけ現役進学率が向上しました。また、海外大学の合格者も年々増えています。こうした実績が受験生保護者からの大きな期待に繋がっていると思います。

一般入試①を出願した8割の方は、一般入試②にも出願しており、まさに「海城熱望組」が年々増加しているように思います。この熱望組を増やしている要因は何で

一方、進学実績だけが評価されているわけではありません。今の海城生は、学内での活動にとどまらず、学外で行われているプロジェクトなどにも積極的に挑戦し、成果を上げています。(そのめざましい活躍ぶりはこちらの「生徒を知る」に掲載されています。ぜひお読みください。)

海城生の頑張りにあるのではないのでしょうか。

また、海城生が学校説明会やオンライン



退職しました

私が1972年（昭和47年）に入学して今年でちょうど50年になります。その当時は、1クラス55人で10クラスの男ばかりのむき苦しい、大編成のところに入ってしまったというのが、第一印象でした。その年は、2月に浅間山荘事件などがあって、海城も学生集会などがあつて学生運動の風に触れた事を覚えています。高校1年は国語科の秋山先生、高校2年、3年は社会科の目良先生がらお話しがあり、1981年（昭和56年）に海城に戻ってきました。1986年（昭和61年）には田中先生の後を受け継いで、技術科に移りました。1996年（平成7年）には専任になり今に至ります。クラブの顧問は主にラクロス



先生が担任でした。クラブは、美術の草野先生に出

海城生活半世紀を振り返って

技術科教諭 細川 勝（昭和50年卒）

会って毎日、デッサン、油絵三昧の生活で過ごした。卒業後は、武蔵美術大学の油絵科に入つて、大学4年の時、海城での教育実習のうちに、1来年、美術の非常勤の岡田先生と、二人三脚で頑張ってきました。また修学旅行の思い出としては、中学では村山雅之先生に、自由行動の時に、連れて行ってもらった京都南禅寺あたりの、瓢箪で頂いた懐石料理の味に感謝を受けました。高校では、成田先生とダイビングした沖縄伊江島の海の色の美しさは、忘れられません。50年長い思い出ばかりですが、海城に残る後輩には、物を作る喜びを忘れないで、生きて欲しいと思います。長い間、ありがとうございました。

退職しました

定年にはあと数年あつたのですが、担任学年の中学卒業に合わせて、海城を「卒業」しました。勤めた期間は29年。30年以上勤められる先生も少なくない海城（というか、私立学校）では、決して長い方ではありません。海城に勤め始めたときは33歳で、スタートが遅かったのがその理由です。それまで何をしていたのかというと、何のことはない、ずっと教員でした。大学院に入ると同時に講師を始め、男子校・女子高、私立都立進学校・大学附属校・



夜間定時制高校と、族やつてるバイク少年、という具合に、いろいろな学校を経験しました。海城教員をからかうこともあります。「進

反応のいい生徒に恵まれる喜び

社会科教諭 鉄道研究会顧問 井口 靖

は8校目の学校です。学校の生徒が一人残らず常に勉強熱心なことで知られていて、「前とは違うでしょう」とよく言われます。しかし、僕らの感覚としては、どの学校に行ってもそれほど大きく違ったという気はしません。たしかに、「お嬢様女子高」にはいかにも「お嬢様」という感じの上「それって面白そうだな」という反応を返してくれるときがありました。中高の教員というのは、自分が興味を持った分野「自分の好きなこと」について話してカネがもらえるという恵まれた職業ですが、自分が好きなことに相手は興味を持ってくれば、なおよしいですね。この学校もあまり変わらないと書きましたが、海城は生徒諸君の反応のいい学校でした。紙面を借りて、みなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。



その後の海原会賞 伝統の東大俳句会で俳句を磨く



令和二年卒の大熊光汰さんは、東京大学に進学し、現在は東大俳句会の共同幹事を務めている。東大俳句会は、正岡子規の俳号に由来する俳句雑誌「ホトトギス」に源流を持つ俳句会で、会の名前を変えつつも、70年を超える歴史を持つ。共同幹事とは会を束ねる世話役で、会長に近い存在なのだという。

海城祭で発揮する高いホスピタリティや豊かな自己表現力にも受験生保護者様はとて感心しています。では、こうした海城生の頑張りをホスピタリティを生み出している源泉はどこにあるのでしょうか。実は2月に中学3年生のあるクラスにお邪魔し「先輩」として2コマの授業をさせてもらう機会を得ました。テーマは「今の海城はどう？」です。私が過ごした30年前の海城、そこで私が学び得たことを1時間目に話しました。2時間目は事前に提出してもらったアンケートをもとに今の海城生が感じていることを聞かせてもらいました。そのなかで印象的だったのは、海城に入学しての満足度が極めて高いこと、海城生活で楽しいこととして「友人と過ごす時間」や「クラブ活動」と同様に「授業」や「体験学習」が楽しいと書いた生徒も多かったことです。何か特別な秘訣があるわけではなく、授業やクラブ活動など先生方が生徒と一緒に汗をかきながら実践する日々の教育活動の積み重ねこそが海城生の頑張りを引き出し、成長を促しているのだと強く感じました。今後も海城生の活躍を積極的に発信することで、海城の教育を広く伝え、「海城塾生組」をさらに増やしていきたいと思っています。

令和二年卒の大熊光汰さんは、東京大学に進学し、現在は東大俳句会の共同幹事を務めている。東大俳句会は、正岡子規の俳号に由来する俳句雑誌「ホトトギス」に源流を持つ俳句会で、会の名前を変えつつも、70年を超える歴史を持つ。共同幹事とは会を束ねる世話役で、会長に近い存在なのだという。

俳句には、師匠の下に集う結社というものがあ

海外起業OBの ささげ

(有)泰エンジニアリング社長

長田泰範さん

おさだ やすのり (昭和41年卒)

地図に残る仕事

「スケールが大きいな」。長田さんの会社
が関わった様々なプロジェクトの写真を
見せてもらったときの第一印象だった。

長田さんは大学卒業後、巴コーポレー
ションに入社。海外部長を経て40代の若さ
で取締役就任。様々な海外プロジェクトに携
わり、海外部門を拡大していった。

そして2004年、これまでの経験を活か
し、国内や中東・東南ア
ジア向けの建築物、建造
物やプラントの特殊構造
物の設計と施工管理を主
業務とする有限会社泰エ
ンジンアリングを設立。タ
イにもオフィス構えた。

社名は、自身の名前の一文
字の「泰」、タイ王国の「タ
イ」から取った。ちなみに
タイの中国語表記も「泰」
だそう。

同社が特殊構造物を納入するなどして
関わったプロジェクトは、「有明アリーナ」「武
蔵野の森アリーナ」などの国内案件や、「新
ドーハ国際空港」のような海外案件など様々

だ。過去に大
手ゼネコンの地
図に残る仕事」
というCMにも
取り上げられ
たそう。

新国立競技
場建設に際して
は、イラク人建
築家のザハ・ハ
ディッドのデザ
イン案でのプロ
ジェクトの話が
あったものの、残念ながらザハ・ハディ
ンのは撤回されてしまった。

テニスに熱中した高校時代

長田さんは高校から海城に入社。当時は
都立高校の合格発表まで入学金納入が猶
予されていたことから、都立高校の受け皿と
しての側面があり、入試倍率が20倍を超え
ていたという。

高校時代、生徒会の活動もしていたが、高
2よりテニス部に入部。周囲が受験勉強の
ため部活を引退するのを尻目に、高3になっ
ても引き続き真剣にテニスに打ち込んだ。



体育祭の棒倒しで激しい攻防を
したことや、お隣の保善高校とバト
ルしたという武勇伝も語ってくれ
た。印象に残った先生には、就任
間もない若き日の伝説の長島先生
や、河原先生がいたという。

ヨットに熱中、海へ

長田さんは大学に入るとヨット
を始める。社会人になつてからも、
天皇杯（ヨット）に出場するほど
本格的に熱中。ヨットが縁で、元
東京都知事作家の故石原慎太
郎氏との交流もあったそう。

長田さんが海外に目を向けるようになっ
たのは、ヨットによる影響が大きかったのでは
ないだろうか。

コロナ禍での会社経営

海外で事業を展開している長田さんの会
社がどのようにコロナの影響を受けているか
聞いてみた。

以前は月に1〜2回、オフィスのあるタイ
に出張していたが、コロナの影響でこのところ
出張ができていないという。リモートで会議
や商談ができる世の中になったものの、「自

分は古いタイプの人間なので対面で商談し
た方がよいと思う。特に新規取引先などは
リモートでの商談だと不安だ」という。しか
し、最近タイでも規制が緩和されつつあるた
め、近々出張する予定だそう。

これからの「ベース」

日本人は東南アジア圏ではその勤勉さゆ
えに尊敬されていると感じるのだという。タ
イを中心に事業をしている長田さんの実感
だ。日本人として、勤勉さ等の「ベース」を
大事にすべきだと長田さんは言う。

バブル末期、日本のGNPがアメリカに追
いつくのではないかとマスコミで言われてい
たとき、経済的なことよりも日本人としての
「ベース」を大事にしなくてはならないと当
時長田さんは思ったという。

取材の時、逆に長田さんから今の海城につ
いて聞かれたので、「新しい紳士の育成を理
念として掲げているようです」と私は答えた。
すると、「受験実績は良いことだけれど、
それに上のベースとなるものがないといけ
ないんじゃないか。」という助言してくれた。
そして「海に関するのなら喜んで協力す
るよ。」と言って下さった。

(横嶋良太 記)

われら 海城人

環境体験型 空間表現

美術家

富田勝彦さん

とみた かつひこ (昭和51年卒)

表現者の道を見つけた海城時代

花や木をモチーフに絵を描くことが多い富
田勝彦さん (昭51卒)。自身のお仕事を画
家ではなく、美術家と呼んでほしいのだとい
う。曰く、「絵を描くだけでは、自分の表現は
完結しない」。

海城は中学から。サッカー部に在籍し、若
手先生チームとの試合で尾木マコと尾木直
樹先生とボールを奪い合った際、尾木先生が
転倒骨折というアクシデントもあったのだと
か。高校からは漠然と将来を模索したので、
最初はサッカー部には入らなかった。結局



上げたものが人目に触れて捨てられ
る、というサイクルに何か寂しさを覚
えた。仕事は順調であったのだが、何
かが足らず、何かを探しに旅に出た。
アフリカ、ケニアでの旅は、何かを
探すというより、未知を体験す
る旅だった。満天の夜空の星、現地
人の人生哲学や神、生と死が目の前
にある現実。日本には見られな
い自分とは違う何か。実際に体験
することで、頭では理解していたはず
のものごとについて、「そうか、こうい
うことなんだ」と、心から理解をする

後輩へアドバイス

そんな富田さんが、医学部を志望する
海城生へひとこと。

「医学部を目指すなら美術は大事だよ。
デッサンで、人体の研究なんだよ。本を読
むだけでなく、まずは観察しなちゃ」
体験型の美術家の言葉は、次世代に繋ぐ



途中からサッカー部に入ったのだが美術部にも入った。

当時の海城は、学生運動の香りもしたり、受験戦争と呼ばれる先生からの締め付けもあったりバンカラな校風が残っていたりもした。そんな混沌とした青春時代を個性的な友人・先輩・後輩たちと送る中で、「自分は普通の大学に行くような人間じゃないよな」と富田さんは考えた。もともと、手先が器用で、書でも絵でも優秀賞の常連であつた

こともあり、自己表現の道を選ぼうと思ひ立つ。相談をした先生方も同意見だったので、武蔵野美術大学へ進んだ。

体験して見つける本質

富田さんが進んだ造形学部芸術デザイン学科は、現在は空間演出デザイン学科と改称されている。作品を作るだけでなく見せ方を中心に学ぶ学科だ。

卒業後、一度は一般企業に就職し、商品カタログのデザインなどを手掛けた。しかし、作り



この連続。本質を見つめる理解の手順に気づいた。そんな旅を、中東や東南アジア諸国でも繰り返しているうち、触れてきたさまざまな人間の営みについて、頭の中で何かが掴めてきた。

見る人にも体験してほしい

キュレーターの見島やよい氏は、富田さんの芸術を「環境体験型空間表現」と命名した。

富田さんの絵は、向き合ってみることもできるのだが、その場所にあつて、風景となることもできる。もちろん計算されているのだが、相手に多くを任せている。美術家として、自分のテーマを押し付けるのではなく、体験して

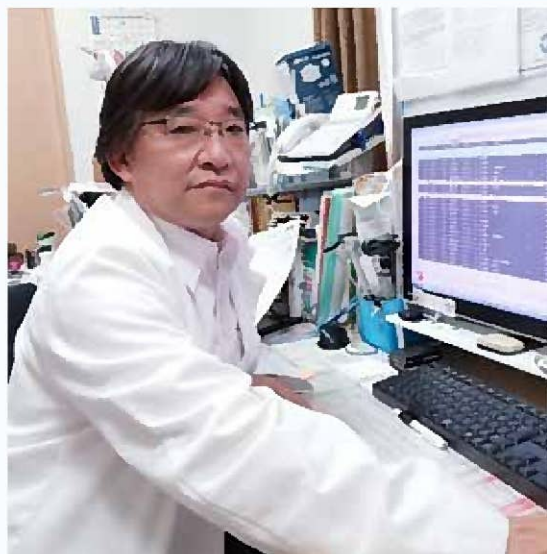


(国井信男 記)

住民の健康を守る 地域医療の砦

歌橋医院 院長

歌橋和哉 さん
うたはし かずや (昭和57年卒)



歌橋医院は近くの主要駅から10分以上離れた住宅街の真ん中にぽつんとある。周りには高層の建物一つなくコンビニのような店もない。見渡す限り戸建て住宅がならぶ地域である。「父がここで開業してから60年近くになります。親子3代に亘って通ってくる患者さんもいます」。そんな静かだった歌橋病院もコロナで一変した。「この3ヶ月あまりで診察に訪れた人は4000人を超えていきます。診察、検査、陽性者は保健所へ連絡、さらに隔離や自宅観察の手配、それに往診などとにかく休む暇がありませんでした。今少し落ち着きましたが、その残務処理が追いつかない状況です」。だがこんななかで歌橋さんは一つの発見をした。

「この住宅街にもこんなにも若い人がいるのかということとそのほとんどがはじめて来院する人たちでした」。改めて

この住宅街で開業していることの意義とその重要性、可能性を認識したという。

住宅地の診療所

歌橋さんは大学受験の前まではあまり医者になることを考えていなかったという。

「医者の息子は医学部という周りの流れで医学部を受験しました。結局一浪して昭和大学医学部に進学したのですが一浪することになったら子供の頃から興味のあつた航空物理学などが学べる学校へ行こうと考えていました」。でも医学部に進むと「意外と自分に合っている」と再認識して取り組んだという。専門は消化器内科だったが平成元年(1989年)に卒業その後大学院での研究や関連病院勤務を経て2000年に実家の医院を継ぐ覚悟を決めてもどった。父

親から院長を引き継いで10年ほどたった2010年には診療施設をリニューアル。最新医療機器を導入し院内をバリアフリー化する。一方それまでの内科・小児科・皮膚科さらに鍼灸治療などに加えて新たに歯科も併設した。身近な地域のホームドクターとして幅広いニーズに対応地域の健康医療拠点としての役割を積極的に担う体

練馬区モデルの作成に関わる

新型コロナウイルスが広がりはじめたころ歌橋さんはちょうど練馬区医師会の役員を務めていた。そこで後に全国的に注目されることになったワクチン接種体制「練馬区モデル」作りに関わった。「ちょうど医師会がよくまとまっていた、早くから区とコロナ対応医療体制作りに取り組んでいました。ワクチン接種もその一つですが、区医師会として事前にアンケートなどで各診療所、医師の実態を把握していたし、どのような体制ならば対応できるかの青写真を持っていました。その具体案があつたので国も折れてやってみるということになったのです。あの時は「ググ」も覚悟してました」とその実現秘話を教えてくれた。

「この2年あまり医者としてこれまでで一番仕事をしました。でもいい経験でした。コロナがなければこんな経験はしなかったでしょう、一度とこのような機会もないでしょう。特に行政との関わりを経験し地域の全体の医療体制の実情を知れたことは貴重な経験でした」と振り返る。

コロナで環境激変

その一方で歌橋さんはいまコロナ後の医療環境がどう変わるか気になっている。「コロナ禍で医者や診療所に対する来院者の期待や見方も変わっています。オンライン診療とかコンビニのようなフランチャイズ経営の診療所などの新しい医療形態も注目を集めています。往診とか在宅医療とかは町医者の仕事だったのですがそれらを専門にするところも出てきています。これまでのような開業医というのは成り立たなくなるのではないでしょうかと危惧している。とはいえ「開業医の強みは常に来院者に寄り添って、その場で判断して適切な処置をするということにありまう。それができるために常に勉強しないとならないのですが」と自信を見せながら地域のために奉仕と思つてここで続けていく覚悟を語ってくれた。バイクが趣味だという歌橋さん「この2年はみんな遊びに行けていいなと横目で見てました。今年ではかけられるかな」と静かな休息を夢見ているが、まだまだそれどころではなさそうである。

(小西洋也 記)



これは短い多くの物語である。勉強ができるかスポーツができれば少年は自分の居場所を見つけていることができる。しかし高校に入るまでのぼくは勉強は普通にできたが、スポーツはまるでダメだった。中学時代にこれならできるかもしれないと思って入ったのは軟式テニス部だった。しかし校の木の下で素振りをするのは軟式テニス部だった。しかし校の木の下で素振りを繰り返すうちに3年間は過ぎて行つた。高校に入ったら硬式テニス部でしっかり練習しようと思はくは心に決めた。



ぼくが海城高校に入学した時、テニスクラブは出来て3年目だった。中学時代は先輩後輩という人間関係に戸惑う日々だったが、このクラブの人間関係は穏やかで先輩も顧問の飯塚先生も兄のような存在だった。ぼくは雨が降っても午後から晴れるかもしれないと思つてラケットを

と言つた時に返ってきた言葉だった。「おまえのような馬鹿はひとりではない、それは父親から下された確実診断だった。『自信を持って』などと言われても持てる訳がなかった。しかし硬式テニスがぼくに『自己（己）信頼（信）』を与えてくれた。そしてぼくは変身した。



吉岡さんの執筆した本に立ち上げた「このころの相談室リカバリー」は23年が過ぎた。ぼく

昭和39年卒 吉岡 隆

持つて行つたし、6時間目の授業の時は教室でテニスシューズを既に履いていた。先生が終わりの礼をして顔を上げるときにはもうぼくの姿はそこになかった。

父親は厳格な人で「勉強ができない」「要領が悪い」「運動神経が鈍い」「不器用」など言葉の暴力をぼくは毎日浴びた。決定的だったのは、ぼくが「きょうだいが欲しい」

と智大学では臨床心理学を専攻し、大学院を卒業後は精神科病院や精神保健福祉センター、児童相談所、保健所などでソーシャルワーカーとして27年間活動し、

人間にとって最大の不幸は何だろうか、自分が何者かもわからずに一生を終えることだとぼくは思っている。カウンセリングは自己理解のお手伝いだが、クライアントの物語を聴きながらぼくも自分の物語の書き替え作業をつづけている。



我々同期のものの集まりのこれまでの苦勞話や思い出を書いて欲しいとのご要望を頂いた。書いていたうちに、我々は実に貴重な体験をしてきたのだと思えてきました。この機会に残る記憶をたどりながら書かせていただきたいと思います。

学徒動員で終戦迎える

昭和二十年卒は戦争の真っ只中の学校生活でした。入学試験は内申書での選考のみでした。三年生ごろからは、勤勞奉仕で皇居前広場の道路の整備や、軍需工場にも動員がかけられて、四年生になると一切学業は無く、毎日軍需工場に東組、南組、北組のクラス別に分かれて配置され、工場によっては工員同様に夜間勤務も組まれました。四年生の後半になると高校や大学（当時は旧制中学から高校あるいは大学の予科を受験していましたが）の入試がどの様に組まれているか混乱していて、私はいつ受験したか正確に思い出せませんが、工場で勤務をしつつ受験をしたというすらすら記憶しています。卒業は戦争のため七月まで延期となりました。さてこの頃戦況は、今考えるときかなり悪化していたのだと思われますが、飛行兵不足の補充に予科練などの募集がきており、当時の熱血漢の中には応募していたものもいたようです。

発足から50年余の同期会

海原卯辰会世話人 昭和20年卒 矢田部 章

卒業から30年目に初の同期会

卒業後社会人になってから大分経つて岡君が仕事上でも同期と偶然再会、その彼と「そう言えば卒業後一度も学年皆で会ってないね、会おうではないか」と意気投合したそうです。そこから有志数人が集まり、各クラスの持つ名簿を集め、また学校にも協力頂いて卒業時の約半数程度が判明、昭和50年（1975年）に第一回同期会

令和元年まで42回を数える

の開催にこぎ着けたそうです。（このとき私は行方不明者として残念ながら出席してませんでした）。場所はクラスメイト小野木君経営の赤坂の店（？）をお願いしたとかで、出席者は五十名に達し盛会だったそうです。ここで名無しでの会では格好が悪いから何とか名をつけるとなり、誰の発案かは不明ですが、「ここにいます我々は皆卯年生まれと辰年生まれ、そしてうだつた場から奴ばかりだ」という話になってここに海原卯辰会が発足しました。

以来会の運営は東・南・北の三組の級長が協議することとし、毎年世話人を選任し、その世話人が翌年の開催会場や開催日を決めて会員に通知し、出席者を募り、会当日の運営や勘定を司ります。平成8年の19回同期会はホテル日航東京（台場）で開催しましたが、この時はご婦人同伴でテレビ制作関係の本多君の案内で建設中のフジテレビを見学、球状建物の中を見ました。また那須温泉に集まった時には、「ここまで来れば那須の分校（および寄宿舎）を見学しては」ととなり、整備された校舎や、生徒の規律の正しさに触れてきました。



平成二十年からは私も世話人の一人を任せられました。この頃が最大規模でしたが、次第に高齢化によりジリ貧となり、施設入り者も増えてきて、出席率が減少して来まして令和元年の第42回目の参加者は五人となりました。その後このコロナ禍で開催できなくなり二人（いずれも世話人）が泉下の人となつたので、今は参加できる会員が三人になり、どうしたものか思案中です。いまは会に出席できない会員も増えたので、案内の際に会員の近況を書いてもらい、これを纏めて「卯辰会ニュース」として配布したところ好評を博したので、先年第二号を発行しました。会員の近況を纏めてまた第二号を発行したいと思っています。

海原三四会 我が仲間健在なり

私たち海原三四会は大東亜戦争2年目に入学し、連日の空襲、勤労動員、終戦、学制改革と激動のうちに海城時代を過ごした戦友のような貴重な仲間なのだが、91歳、多くは西方に旅立ってしまった。コロナ前の記念写真からも森昭雄と杉浦宏が逝ってしまい寂しくなったが、分かる範囲では池

田多門、梅原力、奥山尚、嘉藤良平、島方重泰、土井譲、平山寛、藤城能教、泊懋は問題を抱えながらも健在です。今や未来は語れないけれど心に残る海城の回想シーンの一つ記します。

昭和20年春、東京大空襲で講堂が焼夷弾の直撃を受けた。燃えさかる火は鉄の扉を突き飛ばす勢いである。火が噴き出せば隣接の木造の教室（一階に音楽室・剣道場・柔道場・二階に図画室・生物室・工



成人を祝う会2年ぶりに開催

令和2年卒の約8割が参加

3月20日、ことし成人となる令和2年卒の同期生が海城学園に集合し、成人を祝う会を盛大に実施しました。令和2年の卒業生は卒業式も新型コロナウイルスの感染対策から来賓、保護者、見送る在校生のいずれも出席できなかった。その残念な思いもあつて、今回は、卒業式さながらの形式でアリーナでの実施となった。学年の8割ほどが出席出来た。式典終了後は最終学年時に使用していた教室に各自集合し、歓談を行うなど終始和やかな雰囲気の下で旧交を温めることが出来た。式典会場の設営や学年の先生方にサプライズで花束を渡すことができたのは海原会からの資金援助のお陰です。この場をお借りして感謝を申し上げます。

(奥山周亮)

なお当時、来賓として出席できなかった徳光会長からは、youtubeにより



(海原会広報委員会)

海原会賞

今年は持田隼人君と

島村皓志郎君の二人に授与

持田君は高校一年の時に第13回全国高校模範国連大会において優秀賞を受賞し、ニューヨークで開かれる国際大会の日本代表として出場することが決まっていた。しかしその後コロナの影響でこの国際大会が中止となつて実現しませんでした。その代わりとして開かれたオンラインなどによる模擬国連の発表会などでも高い評価を受けました。

また島村君は日本生物オリンピック2021本選大会において金賞を受賞しました。この大会は20歳未満で大学に入学する前の青少年の皆さんを対象とした全国規模の生物学に関するコンテストで、毎回その参加者は3000名を超えており本選に進めるのはわずか30名ということです。さらにその本選で金賞を受賞したのはまさに快挙といえます。海原会ではお二人



の在学中の学業だけでなく対外的な大会等での素晴らしい成績をあげたことさらに後輩たちにも多大な刺激や影響を与えた功績をたたえて徳光会長名で表彰状と賞金を授与しました。

永年会費納入者

(敬称略)

令和02	朝西 克文	平成12	門田 宰
昭和23	島方 重泰	平成29	谷 直起
(寄付1万円)		令和03	鈴木 堯之
平成27	水田 隆介	平成10	川西 直
昭和41	山田 正明	平成12	吉田 徹
(寄付3万円)		(5万円)	
昭和30	太田原 武	昭和52	田上 雅啓
令和03	丸山 颯一	平成03	五十嵐 博
昭和51	吉岡 勉	(5万円)	
(寄付3万円)		令和03	新正 慧
平成28	伊藤 威	令和02	白石 周
令和02	小田原望典	平成04	竹川 英宏
昭和46	齋藤 昭廣	(寄付1万円)	
(追加1万円)		令和02	有田 開
昭和45	斎掛 洋志	令和03	小林 恒司
(寄付9万7千円)		令和02	市川 詩恩
昭和58	吉岡 良平	平成24	内田 竣
平成05	白土 将志	平成09	大友 博之
(5万円)		平成10	瀨本 正明
昭和48	佐々木弘志	(5万円)	
令和03	小野 航汰	令和03	追川 雄世
令和03	江川 温人	令和03	平松 奏人
(3万3千円)		平成31	反町 祐啓
平成01	松本 哲也	令和03	天宮 蒼吾
(3万5千円)		平成23	和田 智史
平成31	和田 祥幸	(4万円)	
昭和34	吉荒 栄一		
(追加3万円)			

寄付 昭和48年卒業生3年1組

(飯塚佐一先生クラス)有志一同 6万円

令和3年12月から令和4年3月末まで(受領日順)
永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますがご了承ください。

追悼 三上英久先生

英語の三上英久先生、昨年末12月30日にお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

三上先生には、高校3年間担任して頂き、無謀な行動した時等、話を良く聞いて頂いた上、ちゃんと諭してくれた、寛大な取り計らいやら、とてもお世話になりました。そんな語りきれないほどの思い出が走馬灯の様に脳裏に流れました。

中でも印象に残った事を少し紹介させていただきます。

て頂きます。



1つは卒業して学友を交え、新宿のスパックでお聞きした話なんですが学年が

上る毎にクラス替えが行われるのです

が、4年、5年は自然的に三上先生のクラスでしたが、6年の時は三上先生に振り分けられていなかったそうなんです

が、川田は人に理解され難いので、ともすると、問題を起こす危険性があるので、そ

三上先生を偲んで

昭和46年卒

川田洋之助

れを理解して扱いが慣れている自分のクラスで面倒見ないという事で、ウルトラCの一本釣りで自分のクラスで見届けられるよう入れ替えしてくれたという事です。お聞きした時は流石に頭が下がる温情を掛けてくれてくれた事に熱

いものがこみあげました。

もう1つは、そんな配慮も知らず能天気な三上先生に、6年生の時、当時は世の中は学生運動盛んな時期で、高校の間では制服・学帽廃止などの気運が高まった時代でもありました。そこで、仲

間数人で、明日は私服で登校しようぜ！って話がまとまり、僕は意気揚々、颯爽？（笑）と私服で登校し

たのですが、何と私服で登校したのは僕一人！案の定三上先生に別室に呼ばれ、事情聴取されました。開口一番誰とメンバーか？すべてお見通しでした。でも、それには答えず、すみませんでしたと謝る事しか出来ませんでした。世の中つて

たのですが、何と私服で登校したのは僕一人！案の定三上先生に別室に呼ばれ、事情聴取されました。開口一番誰とメンバーか？すべてお見通しでした。でも、それには答えず、すみませんでしたと謝る事しか出来ませんでした。世の中つて

こんなもんだ。それが判ればよし！決して仲間を恨んだり責めたりするなよ。川田の男気は約束を守ったことで証明されているし、それは大事に生きて行つて欲しいと諭してくれ、今日は着替えて帰って、午後から来いと寛大な措置をしてくれました。それで世の中の人の有りようそれから以降は、必要と思う事は別ですが、状況をちゃんと分析せず、能天気＆無防備に調子につれてイレギュラーかつトリッキーで思慮に欠けたこの様な恥ずかしい思いをする事はそれ以降にない様に心掛けられる様になったと改めて感謝の念が蘇りました。

最後に海城の皆さんに声を大にして言わせて下さい!! 海城には、生徒のために良かれと思う事には、叱咤激励、助言を惜しまない素晴らしい先生方が揃っておられる事に今更ながら感謝している次第です。

三上先生ありがとうございました。

追悼

海城学園内の売店「おばば屋」のおおばこ内田直枝さんが2021年11月に亡くなられた。

自身の生きがいとされていた「おばば屋」を91歳で引退されてから4年……

「ちりんちりん」とベルを鳴らしながら、校門前の坂道を颯爽と三輪車で立ちこぎしている姿が印象深く、そのうちコロナが明けてからお会いできる、とうかつにも思ってしまった。突然の訃報を受け呆然としてしまった。ここでおばばという呼ぶのはどうかとも思ったが、ご本人も「おばば」と呼ばれることが嬉しかったとのことなので、あ

海城生の心のアイドル、おばば屋の内田直枝さんを悼む

平成14年卒

伊勢田篤史

含め数百枚はあるとのこと、「みんなからももらった色紙は、私の宝物！」と嬉しそうに話していた。

諸先生方を差し置いて、これほどまでに海城生を愛し、また海城生から愛された人は、後にも先にもおばばだけ

えて「おばば」と呼びたい。

もう20年近く前になると思うが、ある時、突然おばばから「色紙にメッセージ書いてほしいのぉ」と声を掛けられ、メッセージをしたためてお渡ししたことがあった。聞くと、在校生や卒業生を

引退の際、おばばは、「残りの人生を引きこもりにならないよう、趣味をもつて、楽しく生きたい」と思っており、すこし引退後の意気込みを語っていた。晩年はコロナ禍もあり、思うように外出ができなかったのではないかと

うが、「商い（あきない）から「生きがい」になったという、おばば屋を60年も続けられ、天寿を全うされたのではないかと

全国数万人のおばばファンとして、心からご冥福をお祈りいたします。合掌。



訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

昭和09	井上 貞之	S 45
昭和16	江川 一平	H 27・2・4
昭和17	金子 英二	R 3・10・5
昭和19	細川 正人	R 3・6・4
昭和20	吉田 諒	R 4・1・17
昭和20	福井 和典	R 3・9・22
昭和24	尾川 堀人	R 2・4
昭和24	谷 健	R 3・3・13
昭和24	玉野 晴次	R 1・6
昭和25	堀口 純弘	R 3・12・19
昭和26	相田 敏男	R 3・2・11
昭和27	大林 廣光	R 2・8
昭和27	小田 武久	R 3・10・16
昭和27	清野 豊一	R 3・6・1
昭和28	杵村 義昭	H 30・6・2
昭和29	高山 弘	R 3・4・29
昭和30	鈴木 久治	R 1・12・27
昭和31	穂戸田義宏	R 4・2・25
昭和35	関野 龍一	R 3・9・4
昭和36	佐藤 洋介	R 3・11
昭和36	関根 昌三	H 27・11・25
昭和41	岩坂 喜正	R 4・4・20
昭和42	山岸 誠	R 2
昭和43	関口 憲雄	H 28・6・19
昭和44	末松 俊明	R 2
昭和45	神永 博光	R 3・9
昭和52	佐藤 省司	R 2・8・23
昭和56	一野 文秀	

合格おめでとうございます

令和4年度大学入試結果概観

学習指導部長 春木 淳

今年3月の卒業生(令和3年度高3)は312名で、文系は2クラスで90名、理系は6クラスで222名でした。

大学入学共通テストは導入初年度である昨年度から一気に難化し、数学Ⅰ・A、日本史B、化学、生物はセンター試験の時代も含めて過去最低点となりました。試験場では数学の試験が終了後に、あまり

の難しさに動揺を隠せなかった受験生も多くいたそうです。海城生も一部の最上位層以外は難化の影響を大きく受け、合計の平均点は昨年度より50点も下がってしまいました。そのような厳しい中でも強気に志望校を変えずに出願した生徒が多かったようです。

東京大学の合格者は57名(現役46名、既卒11名)でした。現役生の東京大学前期入試への出願は109名、合格者は44名と、いずれも1学年8クラスになって以降最多となりました。チャレンジ精神を持つ

て入試に挑んだ生徒たちを誇らしく思います。東大の学校推薦型選抜にも2名合格し、旧推薦入試から累計した合格者数でも全国上位に名を連ねております。これは受験において入試問題を速く解くための学習のみならず、高いレベルでの課題意識を持ち、果敢に挑戦し続けたその学習志向が評価された結果でしょう。さらにコロナ禍にもかかわらず海外大学への挑戦をし、合格者がのべ20名であったことも特筆すべきでしょう。実際に4名が海外大学に進学しています。

本校の生徒は大学入試に対して真面目に熱心に取り組む生徒が多いです。しかし、受験に対する「やりたくない」とか「やりたいことが制限される」といったネガティブな感情を持ちつつ、真面目さでカバーしている生徒が多いようにも見えます。真面目なのは良いことですが、それだけではなく「やらなければいけないことを、いかにして自分のやりたいことと結び付けていくか」という本来的な動機との連携がさらに大事なのではないのでしょうか。

昨年度の4月より毎学期末に授業や行事、部活動などへの取り組みを生徒各自が振り返り、来学期や将来への目標を書いて蓄積していく「キャリアパスポート」というシス

国公立大学

	学部	総数	医	現役	医	卒業生	医
東京大学 合計 57 (現役46, 卒業生11)	文科一類	9		9			
	文科二類	6		5		1	
	文科三類	4		3		1	
	理科一類	29		22		7	
	理科二類	8		7		1	
京都大学 合計 8 (現役8, 卒業生0)	理科三類	1	1			1	1
	法	2		2			
	経済	1		1			
	総合人間	1		1			
	理	1		1			
一橋大学 合計 11 (現役9, 卒業生2)	医	1	1	1	1		
	農	2		2			
	法	2		2			
	経済	4		2		2	
	商	4		4			
東京工業大学 合計 10 (現役8, 卒業生2)	社会	1		1			
	理	1				1	
	工	5		4		1	
	情報理工	3		3			
	生命理工	1		1			
常広畜産大	環境社会						
		1		1			
		9	1	8	1	1	
		1	1			1	1
		9	1	4	1	5	
山形大		3	3			3	3
		5	1	5	1		
		1	1	1	1		
		1				1	
		15	6	12	5	3	1
電気通信大		2		2			
		1	1	1	1		
		1		1			
		8		5		3	
		9		9			
富山大		3	2	1	1	2	1
		2	2	1	1	1	1
		2	2			2	2
		1	1			1	1
		1	1			1	1
滋賀大		1				1	
		2		2			
		1				1	
		1	1	1	1		
		3	3	2	2	1	1
高崎経大		2		2			
		1				1	
		1	1			2	
		1	1			1	1
		3	3	2	2	1	1
東京農工大		1				1	
		1					
		6	6	4	4	2	2
		1	1			1	1
		1		1			
防衛医科大学校		6	6	4	4	2	2
		1					
		1					
		1					
		1					
国公立大学・大学校総数		185	37	136	20	49	17

※「医」は医学部医学科の合格者数(東大理Ⅲを含む)

私立大学

	学部	総数	医	現役	医	卒業生	医
早稲田大学 合計 167 (現役113, 卒業生54)	文	6				6	
	文化構想	9		1		8	
	法	18		13		5	
	政治経済	28		23		5	
	商	13		8		5	
	社会科学	8		6		2	
	教育	9		2		7	
	人間科学	3		3			
	国際教養	2		2			
	基幹理工	37		31		6	
慶應義塾大学 合計 149 (現役106, 卒業生43)	創造理工	16		12		4	
	先進理工	18		12		6	
	文	3		1		2	
	法	7		4		3	
	総合政策	4		3		1	
	経済	32		24		8	
	商	21		15		6	
	理工	67		49		18	
	環境情報	4		4			
	医	1	1	1	1		
岩手医大	薬	11		5		6	
		1	1			1	1
		1				1	
		10	10	8	8	2	2
		2	2	1	1	1	1
		1				1	
		2		2			
		2		1		1	
		10		4		6	
		1		1			
学習院大		8		6		2	
		11	6	5	2	6	4
		4	4			4	4
		2				2	
		2		2			
		1		1			
		3		2		1	
		27		5		22	
		9	9	8	8	1	1
		43		30		13	
昭和医大		8	5	3	3	5	2
		2				2	
		1		1			
		2		1		1	
		1		1			
		1				1	
		1					
		2		2			
		1		1			
		34		22		12	
帝京大		1	1			1	1
		2	1	1		1	1
		8	8	5	5	3	3
		8	8	6	6	2	2
		3		1		2	
		127		75		52	
		5	4	3	3	2	1
		3		1		2	
		11	1	4		7	1
		9	9	5	5	4	4
日本医大		1		1			
		1		1			
		1		1			
		24		6		18	
		1		1			
		1		1			
		2				2	
		94		44		50	
		1				1	
		12		5		7	
和光大		2		2			
		1		1			
		3	3			3	3
		2		2			
		1		1			
		3		2		1	
		1				1	
		1	1	1	1		
		837	75	494	43	343	32

海外の大学

	現役
California Institute of Technology	1
Cornell University	1
DePaul University	1
Duke University	1
Lawrence University	1
Middlebury College	1
Minerva Schools at KGI	1
New York University	1
Swarthmore College	1
Union College	1
University of California San Diego	1
University of Illinois Urbana-Champaign	1
University of Michigan	1
University of Pennsylvania	1
University of Texas at Austin	1
University of Toronto	2
University of Washington	1
University of Wisconsin-Madison	1
Williams College	1
海外大学総数	20

留守電の対応の停止について

海原会には常駐のスタッフはおりませんので、連絡はFAXかHPの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からお願いします。また、海原会の関係で海城学園に電話をかけることは業務の妨けになりますので遠慮ください。

【会報バックナンバー閲覧パスワード】

ホームページの活動レポートから会報のバックナンバーの閲覧ができます。閲覧にはパスワードを設定しております。

ユーザー名はkaihouです。

パスワードは2022年5月10日までは「goTo:101」

2022年5月11日からは「reiro.1K」になります。

海城祭応援広告を募集!!

9月17/18(土/日)に開催予定の第131回海城祭の開催パンフレットへのOB同窓生からの広告を募集しています。

- 【連絡先】 海城高校2年 長谷川誠之
080-2726-1065
masayuki1112@outlook.com
- 【大きさ/代金】 A4の約16分の1サイズ
(約4.5×6.5cm)
一枠¥10,000(複数枠可、要相談)
- 【締 切】 6月6日(月)まで



「昔は、隣もあそこもこつちの角も商店で、私はそういうこの町が大好きで、ここで育ってきたんです」

「横浜マルニカフェダイニング」という店名についてであるが、横浜という言葉は浜っ

子としてどうしても入れたかった。マルニというのは家紋である。酒も料理も味わってほしいので、カフェでなく、カフェダイニングとした。思い入れがそのまま店名になった。

外観は昔ながらの日本家屋で、「ぬのや」の看板がなんとも趣深い。それでいて、内装はおしゃれなカフェダイニング。そのギャップが面白いのだが、意外にもしり

自薦他薦、海城OBのお店情報をお寄せください。

海腹グルメ ⑮

横浜マルニカフェダイニング

江戸っ子は、三代続いて江戸生まれでなければならぬ。うだが、浜っ子はどうか。とはいえず、四代続く呉服屋の息子である河西(旧姓馬場 元さん(平10)) なら、浜っ子で間違いないだろう。

海城中学時代は卓球部。現在の中学卓球部は河西さんたちが働きかけて創部した。顧問になつてもらったのは現在海城特別補佐の中田大成先生。当時は新任だったという。

海城高校卒業後は一橋大学を経て出版校閲の会社に就職した。「20代の後半、オフィスワークに行き詰ってしまった。座つてるのは向かない」とは本人談。以後、飲食の世界に入る。

新宿のバーで修行をスタート。ドイツビールのお店では店を任せられドイツへ研修に行ったこともある。ミュンヘンのビアホールやワイン畑でボンモに触れ、「急発起してソムリエの資格を取った。

調理の勉強まで一通り終えて、店を出そうと考えたとき、いろいろ検討して、実家の呉服店の一部をダイニングカフェにすることを決めた。東神奈川駅徒歩5分と駅前ではないが、目の前は神奈川区役所である通りが多く、立地は申し分ない。この場所に決めたのは、呉服店の日本家屋を利用することで、昔ながらの街の景色を残したかったからだといふ。

「昔は、隣もあそこもこつちの角も商店で、私はそういうこの町が大好きで、ここで育ってきたんです」

「横浜マルニカフェダイニング」という店名についてであるが、横浜という言葉は浜っ

子としてどうしても入れたかった。マルニというのは家紋である。酒も料理も味わってほしいので、カフェでなく、カフェダイニングとした。思い入れがそのまま店名になった。

外観は昔ながらの日本家屋で、「ぬのや」の看板がなんとも趣深い。それでいて、内装はおしゃれなカフェダイニング。そのギャップが面白いのだが、意外にもしり

代わりに用意していたのは、漬カツ。このカツの豚肉もまた、はまばりくという横浜ブランド。カツと言っても、トンカツではなく、ミラノ風カツレツに仕上げている。揚げるのではなく、焼く揚げているので、軽く、脂が甘さが心地よい。カツに合わせる酒といえば、やっぱりビール。樽生のクラフトビールが待っている。横浜スタジアムの客席でおなじみの、横浜ベイブルーイングの樽生ビールが、ここで飲めるのだという。

これでもかとあふれる横浜愛。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を聞いてみた。ランチ営業をしているので、緊急事態宣言下でも時短営業で済んだとのこと。居酒屋さんたちよりはマシだったと言えるが、お客さんが一日に4~5人というところもあつた。

お客さんは地元で働いている方や住んでいる方が中心で、区役所に寄つた方の方も多いという。素材も作る人も食べる人も、まさに地元密着。

今回の会報が届くころ、お店は4周年を迎える。ダイブな横浜を感じるカフェダイニングであつた。

編集担当

森山昭洋 (S 41)
小西洋也 (S 41)
川田洋之助 (S 46)
国井信男 (S 62)
岡本浩太郎 (H 02)
横嶋良太 (H 05)

◎「フイック」に惑わされないためには事実をしっかりと確認することに加えて想像力を研ぎ澄ますことだろう。ただネットと想像力はどちらが良くなるかという点。想像力を高めるためには「スマホを捨てて街に出よう」ということか。(小西)

◎環境や情報が価値観に与える影響を意識させられる昨今です。50歳になっても高校時代の影響が残るとは18歳当時知る由もありませんでした。ここまできたら一生ものでしょう。(岡本)

◎形はどうあれ、海原会総会が今年開催されるので本当によかったです。でも私は今年で海城卒業30周年。願わくは記念品をもらいたかったです(笑)。(横嶋)

◎コロナの長期化。どう生きるか模索しています。(森山)

◎この度初めて、海原会の会報のお編集に関わらせて頂きました。私にとっては海城学園卒業後50年を迎えるの快挙です。そこで感じさせて頂いたことは、それまでは、何の気なしに受け取っていたのですが、海原会の各部会の皆さん、論議や工夫、会報のあり方等々、何度もキャッチボールや時には喧嘩言々の意見を交わし合ひて出来ている事に感動しその一員に入れて頂いたことに嬉し思います。新参者ですが、出来る事は出しつければいい程度、積極的に行かせて頂きたいと思えます。これからはSNS(メールアドレス等々)活用とか考えて行く必要も海原会発展と充実のため必要でしょうから若い皆さんの事務局参加をお願いしたいなあと個人的には思っています。(川田)

◎新型コロナウイルスの影響でお休みしていた海腹グルメが、ようやく復活した。みんなでワイワイと集まれる日が近いと信じる。

編集後記